

第5章

漢代の調査 文物が語るシルクロードの交流

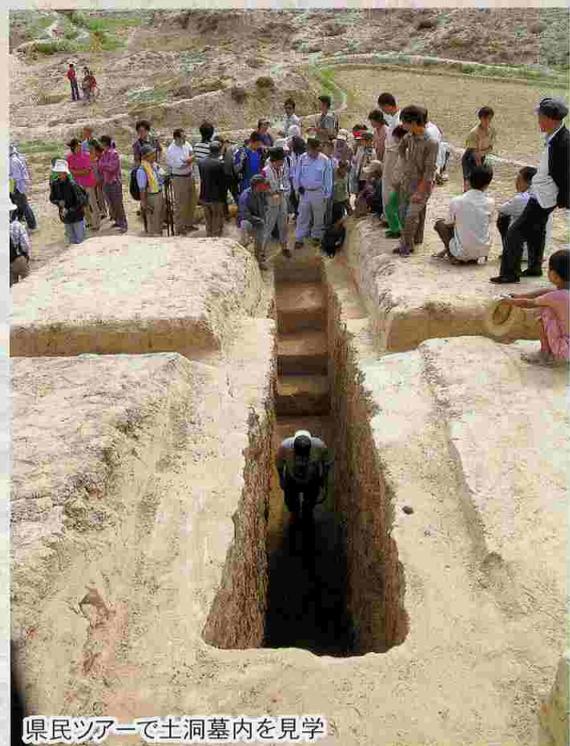
今から約2,000年前の後漢代につくられた集団墓地を調査しました。漢代にこの地域で流行した土洞墓と呼ばれる墓は、地下に向かって長い墓道を掘り下げていき、地面から3mくらいの深さにたどり着いたところで、横穴の墓室をつくる地下式横穴墓です。墓室の入り口は、石やレンガが積まれてふさがれています。



ならんで発見された墓道



土洞墓がある褐色の大地には、目を癒してくれる黄・赤・紫などの野の花が咲いています。



県民ツアーで土洞墓内を見学

土洞墓調査の流れ

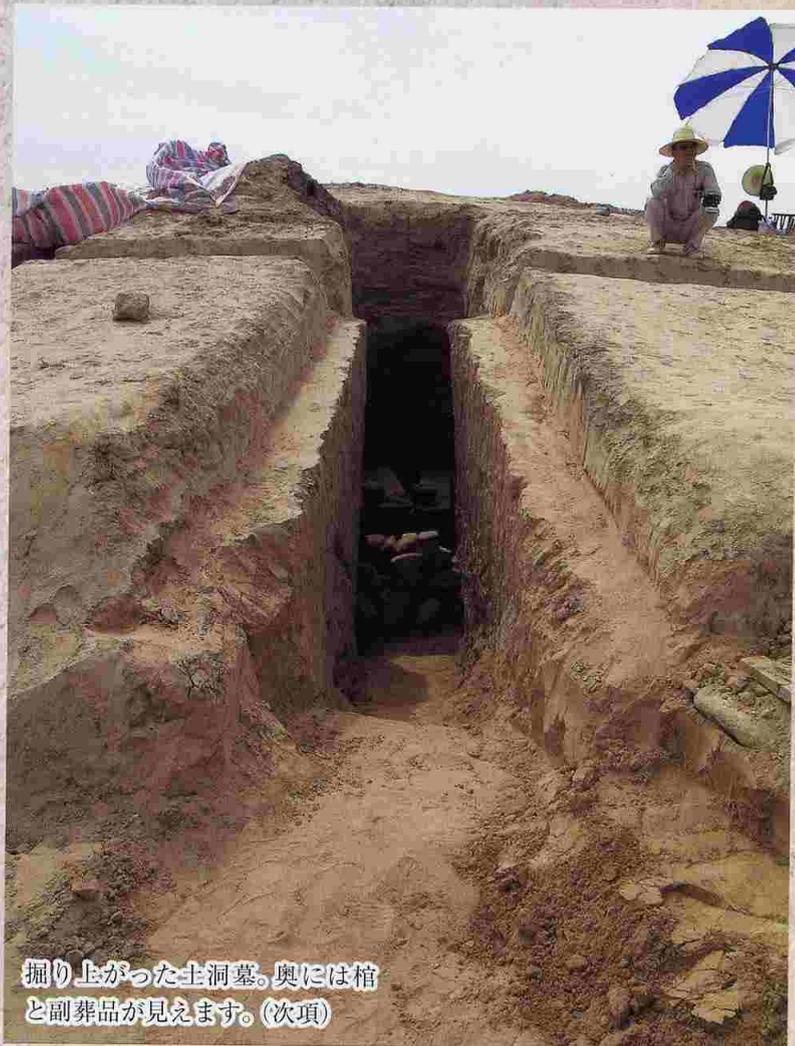
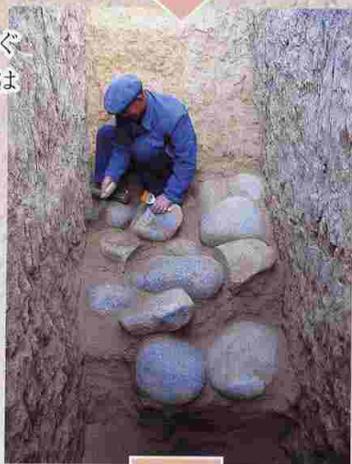
微妙な土の違いで墓道を見つけ、掘り始めます。



スコップ一つで
どんどん掘り下
げます。

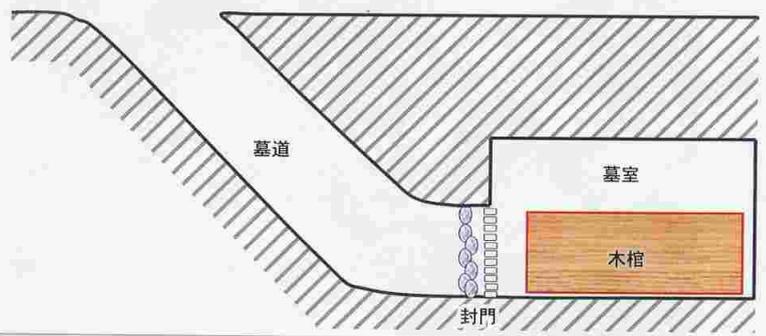


墓室を塞ぐ
石積みをは
ずします。



掘り上がった土洞墓。奥には棺
と副葬品が見えます。(次項)

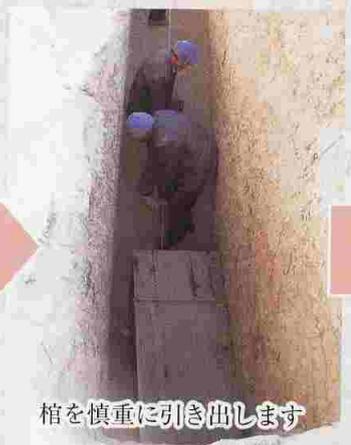
土洞墓内の断面模式図



墓室内にライ
トを持ち込ん
で丁寧に調査
します。



棺を慎重に引き出します



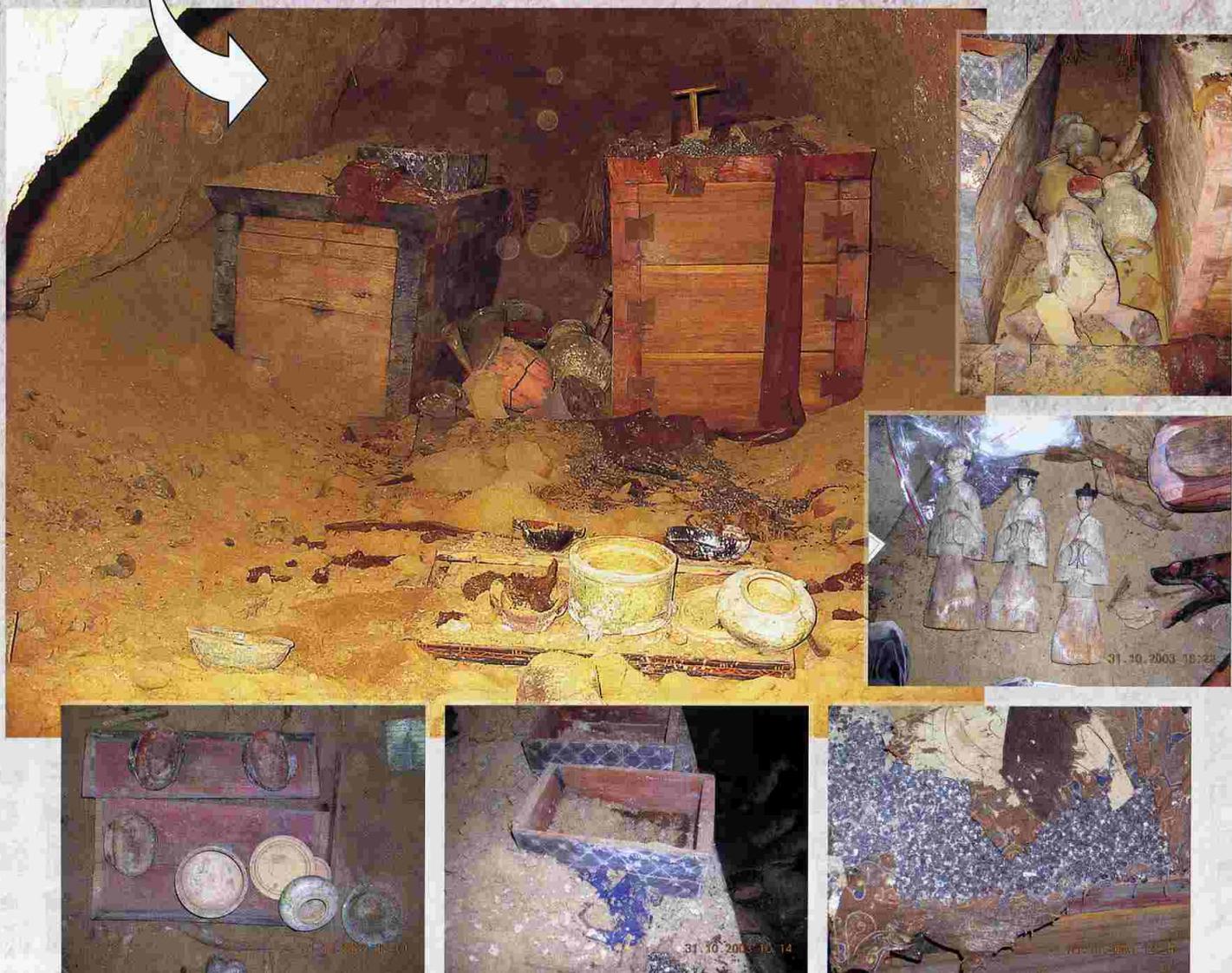


深い地中で寄り添う棺

仲良く並んで寄り添う棺。一つは赤く縁取りされています。赤い方が男性、縁取りされていない方が女性のようなのでした。夫婦でしょうか。暗い墓室の中で、2,000年の時を隔ててなお、人の愛情は生きているんだということを実感する瞬間です。



墓室をふさぐレンガ積み。ここを開けると…



2,000年ぶりの光

地下へ深く掘り下げて、ようやく辿り着いた墓室。中を開けると、いきなり光が差し込みます。2,000年ぶりの光を浴びた棺と副葬品たち。墓室に舞う砂埃が光に反射して、まるでスターダストのような情景に、しばらくの間、息をのみました。



銅鏡



ガラス玉のネックレス



ガラス製の耳飾り

08.11.2003 17:07

副葬品の数々



朱塗りの木馬

08.11.2003 11:38



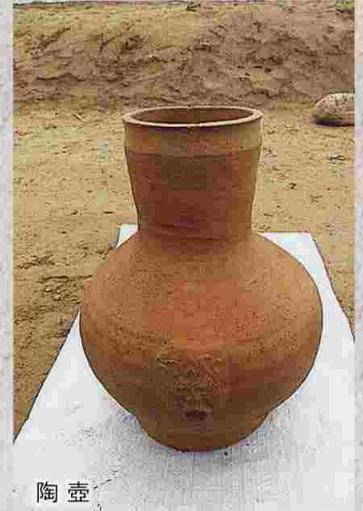
竹盒



陶井 (井戸の形をした陶器)



陶倉 (倉の形をした陶器)



陶壺



墓室内の漆喰の壁に描かれた人物画



02.11.2003 10:41

2,000年前のものとは思えないシルク製の衣服



02.11.2003 17:17



犬の木俑

漢代といえば日本では弥生時代にあたります。日本では大陸の先進文化が一挙に流入してくる時代です。シルクロード上にある磨嘴子遺跡は中・小地主の集団墓地と思われませんが、副葬品には東西の文化交流を示すさまざまな文物があります。これらの副葬品たちは、一斉に版図を西域へ広げた漢帝国の覇権を示すとともに、今は荒涼とした磨嘴子の地も、かつては東西交易の地として栄えた日々があったことを語りかけてくれます。



31.10.2003 17:24

鶏の木俑